

風疹の成人例

湯川 曜子, 稲沖 真, 笹江 舞子, 藤本 亘

26歳女性。38℃以上の発熱と全身倦怠感を伴い顔面・体幹に紅斑を生じたため当院皮膚科に入院した。初診時顔面・体幹に5 mm 径までの淡紅色斑が多数見られ、耳後部と頸部にリンパ節腫脹が認められた。臨床的に風疹と診断し、入院3日後に症状は消失した。初診時に行った風疹特異的IgM抗体検査は陽性で診断が確認された。2003年1月から8月の間に18歳以上の風疹患者20名が当科を受診し、成人例の増加が推測された。この20例の集計では関節炎、白血球減少、血小板減少、軽度の肝機能障害が一部の患者に認められた。

(平成16年8月6日受理)

Rubella in Adults

Yoko YUKAWA, Makoto INAOKI, Maiko SASAE, Wataru FUJIMOTO

A 26-year-old Japanese woman visited the Department of Dermatology of our hospital with general lassitude, a temperature of more than 38℃, and disseminated erythematous macules, less than 5 mm in diameter, on the face and trunk. In addition, her retroauricular lymph nodes and cervical lymph nodes were enlarged. A clinical diagnosis of rubella was made, and all symptoms disappeared by the third hospital day. A test for anti-rubella IgM antibodies was positive, and the diagnosis of rubella was confirmed. We reviewed 20 cases of rubella diagnosed between January 2003 and August 2003 in the Department of Dermatology of our hospital, and an increase in the number adult rubella patients was suggested. Arthritis, leukopenia, thrombocytopenia, or mild liver dysfunction was observed in some of these patients. (Accepted on August 6, 2004) *Kawasaki Igakkaishi 30(1) : 37-41, 2004*

Key Words ① Rubella ② Adult ③ Congenital rubella syndrome
④ Vaccine

はじめに

風疹は小児におけるウイルス性発疹症の代表的なものであるが、近年成人例が増加してきている。その原因の一つとして1989年から風疹ワクチンの接種が任意となり、接種率が低下した

ことが挙げられる。岡山県でも1993年、1994年、1997年に次いで2003年に風疹の流行がみられ¹⁾、当科にも風疹の患者が多数受診し入院治療を要する例もあった。今回われわれは成人の風疹の1例を供覧するとともに2003年1月～8月に当科を受診した風疹患者20例の集計結果を含めて考察する。

の発生頻度は女性が57% (4/7), 男性が15% (2/13) で女性に多い傾向がみられた。関節炎合併例のうちの1例(症例19)は前述のように歩行が困難になるほど自覚症状が強かった。このことから風疹に伴う関節炎は一過性だが重症例が存在することが示唆された。

b) 白血球減少：ウイルス感染症の特徴だが、脳炎合併例では逆に増加するとされている。血液検査を行った自験14例の集計では3例で初診時に2000/ μ lまでの減少が認められたが風疹の治癒後に回復した。

c) 血小板減少：血小板減少が時々みられまれに血小板減少性紫斑病を発症することもある。検査を行った自験14例中5例で10万/ μ l程度までの血小板減少が認められたが、これらは風疹の治癒後に回復した。

d) 肝障害：ときにLDH, GPT, GOTの軽度上昇が認められることがある¹⁾。検査を行った自験14例ではLDH上昇が6例, GPT上昇が

4例, GOT上昇が3例に認められたがいずれも変化は軽度であった。

e) その他：重要な合併症として妊婦の感染により胎児に難聴, 白内障, 先天性心疾患などの障害を生じる先天性風疹症候群³⁾がある。妊娠5ヵ月までの妊婦が風疹に感染すると発症する可能性がある。その他まれな合併症として脳炎や溶血性貧血^{1), 5)}がある。

結 語

風疹の成人例を報告した。成人例は小児例と比較して重症化することが多く、妊婦が感染すると先天性風疹症候群を発症する恐れがある。風疹の予防にはワクチン接種が有効であり、接種率の増加が望まれる。

本論文の一部は倉敷臨床皮膚科懇話会(2003年10月, 倉敷市)において口頭発表した。

文 献

- 1) 岡山保健所保険課：風しん緊急対策。 <http://www.pref.okayama.jp/okayama/fukushi/hokenka/fuusin.htm> 2003年3月
- 2) 国立感染症研究所感染症情報センター：風疹の現状と今後の風疹対策について。 <http://idsc.nih.gov/others/topics/rubella/rubella.html> 2003年5月
- 3) 寺田喜平：風疹, 先天性風疹症候群。小児内科33(増刊号)：312-313, 2001
- 4) 寺田喜平, 森 玲子, 河野祥二, 片岡直樹：予防接種法改正後の風疹ワクチン接種率低下と先天性風疹症候群の危惧について。日児誌101：1713-1714, 1997
- 5) 川村眞智子：風疹ウイルス抗体。臨床医28(増刊号)：1206-1208, 2002
- 6) 寺田喜平：風疹。小児内科33(増刊号)：962-965, 2002
- 7) Gellis SE：Rubella (German Measles). in *Dermatology in General Medicine*, 6th ed. (Freedberg IM et al. ed.), McGraw Hill Book Co, New York, 2003, pp 2041-2043